



診療科のご案内

大阪母子医療センター
血液・腫瘍科



白血病、小児がんのこどもは「大阪母子医療センター」で

大阪母子医療センターはこどもの病院です。そしてわれわれ血液・腫瘍科は血液疾患、とりわけ白血病や悪性リンパ腫に罹患したこどもたちの診療を行なっています。半世紀前は不治の病でしたが、現在では8~9割のこどもたちが治癒します。やがて復学し、社会人となり、今や若年成人の数百人にひとりが小児がんを克服した大人という時代になりました。



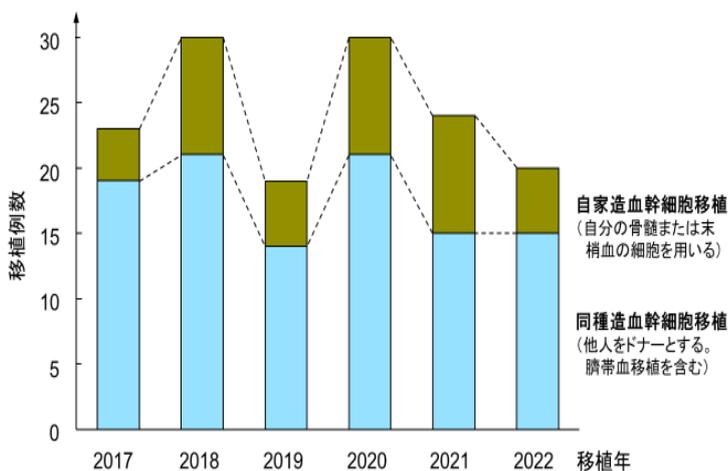
手術、放射線療法、抗がん剤が治療の三本柱

われわれはまた小児外科、脳神経外科、整形外科・リハビリテーション科をはじめとする外科系エキスパートと協力して、内臓や脳などの小児がん（悪性固形腫瘍）に罹患したこどもたちの診療を行なっています。診断は画像検査ののちに生検にて確定し、治療の三本柱は**手術、放射線療法、抗がん剤**です。病理診断科や放射線科のエキスパートとのパートナーシップの中で診療が進んでいきます。



小児がん治療を終えて数年以降のこどもたちのため、長期フォローアップ外来も併設しており、そこでは消化器・内分泌科など小児内科系、および看護師、心理士のエキスパートとともに心身のサポートを行なっています。もちろんその頃には身体能力も免疫機能も問題なく、ひとりの普通のどこにでもいるこどもとして、日常診療や予防接種などで地域の診療所の先生方にお世話になっていることでしょう。

造血幹細胞移植の実績





第四の柱としての免疫療法



治療については従来の三本柱に加え、新たに第四の柱が台頭しました。免疫療法です。本来は病原体を攻撃する抗体を、がん細胞を直接攻撃したり、がん細胞の免疫エスケープ機構を無効化させるなど、人類の自由な発想でデザインされるようになりました。抗体による免疫療法です。

患者さんとは別人、すなわちドナーさんからいただいた骨髄細胞を点滴投与する骨髄移植は、抗がん剤だけでは治せない白血病に対する治療法です。そこから派生した末梢血幹細胞移植や臍帯血移植を含め、当科はこれらすべてに対応しています。これらは細胞による免疫療法という一面も持っています。

この移植免疫を担うのがT細胞（Tリンパ球）ですが、当科ではさらに、がん細胞を攻撃する遺伝子を、自己のT細胞に導入して移植する、CAR-T細胞療法（キムリア®）も可能になりました。対象疾患はまだ白血病で最も多いB前駆細胞型急性白血病のみですが当科の新たな一歩です。



血液・腫瘍科受診のご案内

当科では血液・免疫系、EBウイルス関連疾患などに関する専門外来を開設しております。診療実績は多い順に、血液良性疾患、リンパ節関連（内科系疾患）、免疫不全の鑑別、膠原病の疑い、となっております。地域連携に宛てて初診申し込みをいただいております。

血液・腫瘍科	月		火		水		木		金	
	AM	PM								
一般外来	再診		初診				初診		再診	
特殊免疫外来								○		
長期FU外来										○

悪性疾患、高度な血球減少症などで入院のご相談を要する場合は、代表電話番号（0725-56-1220）を通して当科スタッフまで直接ご連絡いただくか、小児がんホットラインまでご連絡ください。



血液・腫瘍科ホームページ

小児がんホットライン(24時間受付直通)

☎ 0725-57-7677



泉北高速鉄道 光明池駅 徒歩 5分

大阪母子医療センター

初診予約：患者支援センター 〒594-1101 和泉市室堂町 840 TEL0725-56-1220（代表）

FAX **0725-56-5605**（24時間受付：午後7時以降受領のFAXの回答は次の受付開始後です）



（2023年9月発行）